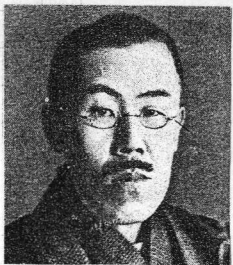


金子重樹 かねこ しげき 歌人。明治九年十一月二十日東京生れ、昭和二十六年二月二十日歿（二八六一―九五二）。舊姓武山、本名雄太郎。筆名東京のはづりの里、清涼文彦、淡路の里人、重樹主人、重樹生、金子重樹等。

明治二十五年病を獲り尋常中學校中退。翌年落合直文門。二十年雜誌『新聲』歌欄擔當。二十四年尾上柴舟と親交、其の敘景歌運動を推進。二十六年白菊會を、二十八年短歌研究會を組織主宰。大正七年歌誌『光』創刊。昭和に入り自由律を試るも、晩年定型に復した。妻金子と歌を作り、歌人武山英子は實妹。

編著書『主の侍草』（本名、編、明治二十九年八月、二十六年和歌山・古川喜）頁刊。富木重任追悼歌文集）、『無聲觸鳴』（合著・岩崎英重編、明治二十一年五月、二十八年興雲齋）、『片われ月』（明治二十四年一月、二十八年新聲社）、『敘景詩』（尾上柴舟共選、明治二十五年一月、二十八年新聲社）、春風會歌集『われが艸』（佐々木信綱共選、明治二十五年七月、二十八年長野・金井莊之助編刊）、『小詩國』（明治二十七年十一月七日新潮社。附武山英子『小紅集』）、新派歌集『小詩國』（明治二十八年）二月、二十八年新潮社）、青年歌集『凌宵花』（選、明治二十八年七月十日新聲社）、『伶人（附白菊會詠草）』（明治二十九年四月十日短歌研究會）、『和歌入門』

（明治二十九年十一月十八日新潮

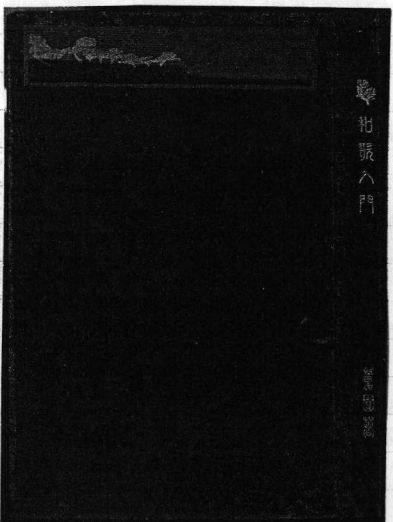


社）、『われがおと

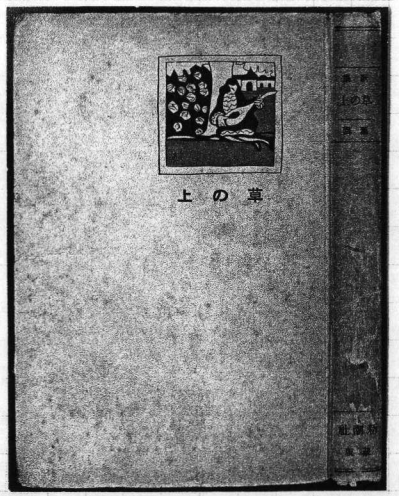
ひ』（明治四十年

二月十八日弘成館

書店）、『和歌新



辭典』(明治四十一年二月二十八日新潮社)、『作文叢書』(日本文章
 學院編、第一編『新書簡文』明治四十一年九月二十八日、第四編『書
 簡文捷徑』四十三年五月二十六日新潮社)、『覺めたる歌』(明治四
 十二年三月十五日春陽堂)、歌集『山河』(明治四十四年十一月二十
 日新潮社)、『和歌入門(増補改訂)』(明治四十五年四月十五日新
 潮社)、『作歌新辭典』(明治四十五年四月二十七日新潮社)、『文
 藝練習法叢書』(第一編『作歌練習法』明治四十五年七月十日、第一
 編『日記又練習法』大正二年九月十五日、第五編『紋景又練習法』五
 年十月二十八日新潮社)、『歌文新話』(大正九年十一月二十五日啓
 成社)、『作歌練習法』(大正二年一月
 月十五日新潮社)、歌集『草の上』(大
 正三年二月五日新潮社)、『金子董園
 集』(大正四年二月二十日新潮社)『現
 代自選歌集』、『歌の作り方』(大
 正五年四月二十日新潮社)、『自然と
 愛』(大正五年九月五日新潮社)、『最新代表歌選』(若山牧水共選、
 大正五年十一月十日新潮社)、『文章入門叢書』(一)『誰ごもわかる
 文章の作り方』大正六年二月五日、三『よひ文思ひ文』練習の實際』
 七年五月二十八日新潮社)、歌集『星空』(大正六年十一月十五日新
 潮社)、『小品一千題』(編、大正七年二月二十八日新潮社)、『青
 流』(大正七年六月十日新潮社)、歌集『静まれる樹』(大正九年二
 月二十日新潮社)、『大正十年刊歌集(大正十一年度)』(共編、大正十二
 年十月一日朝根書店)、『金子董園全集』(大正十四年十一月五日新



潮社）、『作歌の第一歩』（大正十五年九月五日新潮社「文藝入門叢書」）、『現代名歌選集』（選、昭和

十年二月二十六日新潮社）、『水聲集』

（昭和十年五月、千代田人書房）、『新

選金子黄圃集』（昭和十一年七月十日

新潮社「新潮文庫」）、『歌の作り方』

（昭和十一年十月十一日新潮社「入門

百科叢書」）、『年刊歌集』、『新短歌・一九二七年』（合著・新短歌ヲラ

ブ編、昭和十一年十一月十日第一書房）、『白鷺集』（昭和十一年六月

月六日新潮社）、『光風集』、『皇雲年刊歌集』（撰、小寺秋雨編、昭和

十四年五月、千代田愛知・皇雲社）、『皇國百人一首』（選、昭和十七

年八月十五日文明社）、『朝蠅』（昭和十八年九月、千代田青磁社）等。

